

「ベトナムサマースクール参加報告書」

京都大学文学部2年 大東 将

① 学習成果

今回初めて海外留学を経験し、外国の文化・生活を体験するだけでなく、日本の文化生活を見直す機会にもなり、貴重な時間を過ごすことができた。その中で最も痛感したのがやはり言葉の壁である。特にベトナム語は発音が難しく、現地の方に意思を伝えるのは困難を極めた。それだけに言葉が通じた時は大きな喜びを感じたが、異なる言語で会話をする事の難しさ、大切さを肌で感じた。③でも述べるが今回のプログラムについてくれたサポーターさんは日本語がとてもうまく、現地での生活は彼らに頼っていた。だからこそ感謝の想いをベトナム語で伝えたいという気持ちもあり、今回の留学を通じて語学学習の大切さを認識し、意欲が向上するきっかけとなった。

② 海外での経験

今回最も印象に残っているのが、ある青年との出会いである。彼は偶然立ち寄った飲食店で働いていた。日本人に見える私に彼から話しかけてくれた。聞くところによると彼は日本語を勉強していて、将来日本で働きたいが日本人の知り合いもおらず行き詰っていたという。それを聞いて私は即座に連絡先を交換し、固い握手を交わした。いつか彼が日本に来てくれることを願う。

③ プログラム内容

今回はベトナム国家大学ハノイ校で、日本語学科の学生の授業に参加するという内容であった。学生はみな日本語がとても上手で驚いた。プログラムにはサポーターがついてくれて一日つきっきりで案内してくれた。彼らのおかげでプログラムは大変充実したものとなり、学生と交流したり日常生活に触れることができたり地元暮らしを覗くことができたりと、サマースクールでしか経験できない時間を過ごすことができた。

④ 進路への影響

今回のプログラムを通じて自分の将来像に生じた大きな変化は、何かを求めている人たちに広く機会を提供したいという願いである。②で述べた青年は生の日本語に触れる機会を持っていなかった。ハノイ校で日本語を勉強していた学生が使っていた教材は、日本の大学の語学学習で使われるものに比べれば粗末なものであった。日本の書店でベトナム語学習の教材を探してみれば、日越の語学学習の現状はすぐにわかるであろう。ベトナムで日本語を勉強していた学生はみな、日本の漫画・アニメが好きだとか文化が好きだ、日本で仕事がしたいという理由で一生懸命勉強していた。そんな彼らを見て一番強く思ったのは、日本語を学ぶ機会を豊富に持ち、充実した学習をしてほしいということであった。このことが直接将来に結びつくかはわからないし実現するのは難しいことであるが、今回の留学を経て何らかの機会を提供したいという思いが生じたのは確かである。